

関西大学『国文学』投稿規定

- 一、投稿者は、原則として関西大学国文学大会会員に限る。
- 二、委員会の承認があった場合に限り、特例として、上記以外の者の投稿を認める。
- 三、投稿論文は、原則として四〇〇字詰め原稿用紙四〇枚以内とする。
 - 縦書き…一頁の書式を二十八字×二十行×二段とし十六頁以内
 - 横書き…一頁の書式を三十七字×三十二行とし十六頁以内
- 四、投稿論文の採否は、委員会にて決定する。
- 五、投稿原稿の返却を希望する場合は、切手を貼った返信用封筒を添付すること。
- 六、掲載された原稿の著作権は執筆者が有する。ただし、原稿の二次利用としての電子化利用の権利は、掲載時点で執筆者が関西大学国文学会に許諾したものとす。
- 七、論文掲載者は、別途定める掲載料を支払うものとする。

◇編集後記

『国文学』一〇四号をお届けします。本号は、この三月をもって退職なさいます。田中登教授が古稀を迎えられますことをお祝いするべく、刊行いたします。

田中教授は、名古屋大学大学院を修了された後、帝塚山短期大学に着任されたことから関西に住居を移され、関西大学には一九九六年に着任されました。国文学研究ことに文献学の一領域と認識されるに至った古筆切研究は、田中先生が確立された学問であり、関西大学で学ぶ学生・院生は言うまでもありませんが、数多くの研究者が田中学に方法を学んでおります。そんな先生が出版された『季節は書と共に 短冊の楽しみ』は、先生が収集なさった古今の短冊を語るシリーズ。短冊という作者自筆の作品に「見ぬ世の友」との語らいが展開します。このシリーズを手元に置きつつ……田中先生のますますの御活躍と、そして御健康とをお祈り申し上げます。

さて今年は暖冬。大阪の開花予想は卒業式あたり。まさに「桜の花ちりぢりにしも」。学士・修士・博士を含めて一三〇名ほどがそれぞれに旅立っていきます。なお最後になりましたが朗報一つ。本年度、国語国文学専修に、加藤洋介教授が着任くださいました。

(薫)